

研究課題名	孤立性胃静脈瘤におけるPTOS（percutaneous transportal outflow-vessel-occluded sclerotherapy）の治療効果についての後方視的研究
研究の意義・目的	孤立性胃静脈瘤に対する治療法として、肝臓を経由して門脈へカテーテルを挿入し、胃静脈瘤の供血血管（流入血管）から、胃静脈瘤を根絶させるための硬化剤を注入する経皮経肝的硬化療法（percutaneous transhepatic sclerotherapy：PTS）が知られています。近年、PTSを改変したPTOS（percutaneous transportal outflow-vessel-occluded sclerotherapy）という方法が報告されています。これは、PTSとアプローチ方法は同じですが、胃静脈瘤の排血血管（流出血管）までカテーテルを進めてコイルなどで塞栓を行った上で、その後に硬化剤を注入する手法です。本研究の目的は、当施設で行われたPTOSとPTSによる治療効果の差を後方視的に比較検討し、その有効性を検討することです。また、術前の肝機能による治療効果の違い、ならびに胃静脈瘤の血栓化に関する曝露因子（性別や年齢など）の違いによる影響も副次的に検討します。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2028年8月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2007年6月～2023年2月に大阪公立大学医学部附属病院（旧 大阪市立大学医学部附属病院）の放射線科で、孤立性胃静脈瘤の治療のために、経皮経肝的に硬化療法を施行された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT画像、消化管内視鏡画像、上部消化管超音波内視鏡画像、血管造影画像】
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院放射線科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 （担当者氏名）原田 翔平 電話番号：（06）6645-3831 メールアドレス：gr-med-radiology@omu.ac.jp